

経営学部インターゼミナール大会の狙いと成果

田 中 則 仁

国際経営研究所では、経営学部における国際経営教育を支援する事業の一環として、去る11月16日（水）に第1回経営学部インターゼミナール大会を実施しました。

(1) 大会の狙いと実施の概要

インターゼミナール大会は、神奈川大学経営学部の各ゼミナールの研究活動の発表と、学生間の相互啓発を目的としています。ゼミナール単位で参加し、共同研究の成果および新規事業の計画についてプレゼンテーションを行ないました。

第1回大会の実施概要は、次のとおりです。

開催主体：国際経営研究所主催 国際経営学会共催

実施日時：2005年11月16日（水曜日）午後1時30分～午後6時

（全体終了後、厚生棟にて講評、表彰式、情報交換会）

発表会場：67号館210教室等（学術学会の自由論題報告会の形式）

研究発表：①学術研究部門

経営分科会－経営理論や企業経営の実践事例に関する研究発表

会計分科会－企業会計理論や最新の会計動向に関する研究発表

国際分科会－地域研究、国際社会、文化比較に関する研究発表

②新規事業計画部門

独自の創業・起業アイデアを新規事業計画（案）として発表

本大会の開催に当たっては、当研究所の運営機関である常任委員会内に実行委員会を設置し、田中則仁常任委員を実行委員長として企画・運営しました。今回のインターゼミナール大会は第1回ということもあり、小さく始めて大きく育てるとの方針で臨みました。

3・4年次のゼミ単位での参加が基本ですので、次のような参加資格を確認して、ゼミ担当の先生方に後期ゼミナールの指導内容と調整の上、本大会への参加を組み入れて指導して頂きたい旨の要請を行い、多くのゼミの協力を得ました。

- ① 神奈川大学経営学部のゼミナール（演習）としてグループ参加とすること
- ② ゼミ学生数が少ない場合は、他のゼミとの合同チームを認めること
- ③ 1ゼミナールから複数グループの参加を認めること
- ④ 3年生を中心とし、若干名の4年生および大学院生の参加を認めること

また、発表の形式は、1) パワーポイントを用いたプレゼンテーションであること、2) 15分の発表と10分の質疑応答とすること、および3) 発表者は1名でも複数でも可とし、質疑応答にはグループ全員が参加すること、の3要件を提示して、各グループに徹底しました。

(2) 審査の要領と発表の成果

4つの部門・分科会での発表は、会場毎に同時並行して進められましたが、審査に当たっては多くの経営学部の先生方（一部非常勤講師および博士後期課程の大学院生を含む）に協力をお願いしました。さらに、各会場での司会進行や時間管理などの業務で4年生諸君の全面的な協力を得ました。

各会場での発表および審査は、次の要領で行なわれました。

- ① 各部門・分科会には3名の教員等を審査員として配置すること
- ② 質疑応答では聴講している学生からの発言も認め、活発な質疑を促すこと
- ③ 審査形式は、着眼点、発表内容の正確さ、論理構成等で点数化すること

第1回の今大会は、全部で17ゼミから36グループの申し込みがありました。実行委員会の期待を大きく上回る多くのグループがエントリーしたことになります。紙幅の制約のため、参加グループの発表テーマやメンバーなどの詳細な報告は別の機会に譲らざるを得ませんが、各部門・分科会別の申し込み件数は次のとおりでした。

すなわち、① 学術研究部門は、経営分科会－8グループ(1会場)、会計分科会－6グループ(1会場)、国際分科会－10グループ(2会場)、および② 新規事業計画部門は13グループ(2会場)の総計36グループです。

審査の結果は、次のとおりです。各賞の受賞グループには厚生棟での授賞式で、当研究所の照屋行雄所長より賞状と副賞（賞金・図書券）が授与されました。

神奈川大学経営学部 第1回インターゼミナール大会

最優秀賞

経営会計部門	日本におけるリース会計基準の特質と課題	照屋ゼミ 代表	荒 修平
国際経営部門	A B C 計画	アサモアゼミ //	渡辺 巧
新規事業部門	百貨店の新サービスについて	穂積ゼミ //	中村良次

優 秀 賞

経営分科会	倒産からの再生 SONYスピリッツはよみがえるか	榊原ゼミ 代表	石川哲嗣
会計分科会	無形資産の会計処理と開示	照屋ゼミ //	山根 梢
国際分科会A部門	沖縄のタブー 基地存在の是非論	泉水ゼミ //	木下 慧
国際分科会B部門	ホテル業界におけるリピータ戦略	アサモアゼミ //	浜手 歩
新規事業計画A部門	市場のすき間を見つけよう!! きつ茶屋	田中ゼミ //	小柳修平
新規事業計画B部門	ミスとサウナによる新しい入浴文化の世代別・ 性別プロモーションについて	穂積ゼミ //	土田久美子

奨 励 賞

経営分科会	セブンイレブンがよい気分を維持するには	田中ゼミ 代表	北 隼一
会計分科会	会計基準の国際的収斂と会計の発展	照屋ゼミ //	猪熊 剛
国際分科会A部門	ブログにおけるコミュニケーション	太田ゼミ //	千葉圭介
国際分科会B部門	沖縄の雇用の現状と課題	泉水ゼミ //	川末真由
新規事業計画A部門	証券市場における証券普及プログラム	穂積ゼミ //	明谷美央
新規事業計画B部門	在庫を持たない中古教科書販売	奥邨ゼミ //	国本浩一

なお、発表内容の審査に当たっては、次のような評価項目について各5点配点(50点満点)で評価されました。この評価項目については、研究成果の発表準備およびプレゼンテーションに当たって留意を促すため、事前に発表グループに公表されました。

- <評価項目>
- 1 発表内容について
 - ① 着眼点の独創性
 - ② 論理展開の一貫性
 - ③ 論点の明瞭性
 - 2 発表方法について
 - ① PPの総合評価
 - ② 発表姿勢・態度
 - ③ 発言の明瞭性
 - 3 質疑応答について
 - ① 回答の的確性
 - ② 説明の論理性
 - ③ 論述の納得性
 - 4 総合評価